

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	学園都市化構想連携協力推進事業		担当部署	教育委員会 学校教育課	
総合計画体系			根拠法令計画など	鳴門市、鳴門市教育委員会及び鳴門教育大学との鳴門市学園都市化構想に関する連携協力協定書	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 ▼ 24年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)	大学連携				
施策	4	大学連携の推進			
基本事業	2	学校教育における連携			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 市内の保育所、幼稚園、小・中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	「鳴門市、鳴門市教育委員会及び国立大学法人鳴門教育大学との鳴門市学園都市化構想に関する連携協力協定書」に基づく連携協力校が、鳴門市内全体の保育所、幼稚園、小学校及び中学校に拡充し、各校(園)における課題解決や教育・保育の充実・向上をめざす。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	鳴門町地区の保育所、幼稚園、小学校、中学校の6校園をモデル地区として、連携・協力を推進する。これまでの取組を検証し、次年度に向けての連携・協力内容について大学や6校園と協議を進め、見直しを行う。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		連携協力保育所・幼稚園・小学校・中学校	6	6	6	6	6	校(園)

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	26年度の取組について定めた鳴門市学園都市化構想実施計画に基づき、鳴門町地区の保育所、幼稚園、小学校、中学校の6校園において、鳴門教育大学により研究事業を実施し、教育の充実・向上に取り組んだ。また、6校園において、学習支援サポーター37名および部活動支援サポーター22名の派遣を行い連携・協力を推進した。						
事業実施手法	<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> その他							
指標名		25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位	
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1	学習支援サポーター活動人数	21	37	40	40	40	人
	2							
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	連携協力保育所・幼稚園・小学校・中学校		6	6	—	—	—	校(園)
	目標達成率(実績/目標)			100.0	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり		事業全体の進捗状況			計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	233	233
		全体予算額	0	0	0	0	0	0
		決算額	0	0	0	0	157	157
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
0.1		0.0	688	845				

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	95	157	403	-	-
	うち一般財源	95	157	403	-	-
	人件費	652	688	688	-	-
	総事業費	747	845	1,091	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		学生ボランティア、教育支援講師・アドバイザーの派遣は、各校(園)においてよりきめ細やかな指導の充実や課題解決につながっていると、大学の施設利用により、園児・児童生徒は、より充実した体験活動を行うことが可能となっている。
	効率性	B:概ね効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	連携協力保育所・幼稚園・小学校・中学校		学校(園)は鳴門教育大学から、その教育資源の提供を受けるとともに、大学の教育研究への協力を行うといったように、相互に連携協力を行っており、学校(園)の教育環境の充実・向上が図られている。
	目標	6	校(園)	
	実績	6	校(園)	
	評価	A:目標を達成できた		
③総合的な評価		B		学校(園)と鳴門教育大学は、相互に連携協力を行っており、鳴門市の教育環境の充実・向上に貢献している。今後も学生ボランティアの派遣等を続けることで、市全域への事業拡大のための課題解決へつなげていきたい。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	鳴門地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の6校園との連携を強化し、教育・保育の分野において、より一層の充実・向上を図っていく。 また、将来的に、市全体に取組を拡充し、市内の教育・保育の充実・向上を図るために、モデル地区における課題や効果の検証を深め、将来的な方向性に向けて検討を進める必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	鳴門町地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の6校園をモデル地区として、連携・協力を推進する。 これまでの取組を検証し、次年度に向けての連携・協力内容について大学や6校園と協議を進め、見直しを行う。			
	H28年度	鳴門町地区の保育園、幼稚園、小学校、中学校の6校園をモデル地区として、連携・協力を推進する。 これまで取組を検証し、段階的な市内全域への拡大について、検討する。			